

国土利用計画(北海道計画)－第5次(原案・案)－への審議会委員意見に対する対応

※太枠は、原案・案を修正。

委員名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
中津川委員	1－(2)－イ－(ウ) 相次ぐ自然災害の発生 (P2)	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境の変化に伴う(大雨、洪水、土砂災害、高潮といった)自然災害の頻発という文言を加えていただきたい。「地球環境の変化」「地球温暖化」「地球規模の気候変動」といった言葉でも構わない。 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動の影響による気温や降水量の変化は、北海道のような高緯度地域ほど大きく、ローカルな影響も顕著となり、各方面でその適応策も講じられる必要があるため、基本方針の中で特筆すべきかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、次のとおり修正します。 <p>「東日本大震災をはじめ<u>地球温暖化の影響が指摘されている大雨による水害等</u>全国的に大規模な自然災害が相次いで発生する中、 ・・・」</p>
	1－(2)－ウ－(ウ) 災害に対して脆弱な道土 (P4)	<ul style="list-style-type: none"> 津波・高潮による沿岸域の被害について言及していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今夏の台風のような記憶に新しい災害に着目するだけでなく、東日本大震災で明らかになった津波で大きな被害を受ける可能性のある沿岸域の脆弱性については、沿岸域の土地利用の在り方にとって重要な要因であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> P4の「災害に対して脆弱な道土」では、安全・安心の観点から、土地利用をめぐる課題を総論的に記述しており、沿岸域など個別具体の土地利用の在り方については、P10の「利用区分別の土地利用の基本方向」で記述していますことから、ご意見を踏まえ、P14の「1－(4)－シ その他(沿岸域)」の記述を次のとおり修正します。 <p>「・・・この場合、環境の保全と親水空間としての適正な利用や津波・高潮等の災害リスクに配慮します。」に配慮するとともに、沿岸域は、津波や台風等による高潮の被害を大きく受けることから、災害リスクに配慮した利用を図ります。」</p>

委員名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
(中津川委員)	1-(3)-イ 農山漁村 (P9)	<ul style="list-style-type: none"> ・ P9の1行目にある都市部で使われている「安全な地域に集約」という表現について、農山漁村においても、同ページ下から8行目で「<u>安全な地域に集約するなどして</u>コミュニティの再生を図り」などを入れて同様に表現すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減、行政コストや自然災害といった面から農山漁村は都市と同様、あるいはそれ以上に集約化が必要であり、それを誘導するような土地利用政策が重要であると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原文のままとします。 <p>農山漁村における諸機能の集約化については、広域分散型の本道においては、機能の集約が困難である地域も多いことから、どのような取組が最も地域に合った手法なのか、地域の実情に応じて方向性を考える必要があるため、原案のような記述としています。</p> <p>なお、この記述を受け、P20の「3-(3)-ア 都市機能の集約化」の中で、「……。生活サービス機能等の維持が困難であり、集落間の相互連携や機能分担が有効と見込まれる集落地域においては、地域の実情に応じて、日常生活に不可欠な施設等を歩いて動ける範囲に集め、周辺地域と公共交通などのネットワークでつなぐ取組を進めます。」と記述しています。</p>